

## 家庭でのいじめ発見チェックポイント

### 第1段階 少し気をつけて観察する

いじめられた小中学生の保護者のうち、わが子の被害を知っていたのは3人に1人という調査結果があります。(平成6年 旧文部省)

1	「ってきます」「ただいま」の声に元気がない	
2	学校や友だちの話を急にしなくなる	
3	持ち物をよくなる	
4	帰宅時に服が汚れている / 靴型がついている	
5	弟、妹やペットなどに乱暴な態度をとる	
6	親への反発がひどくなる	
7	不自然なけがや持ち物の破損がある	
8	お金をよくなだる	
9	友だちからたびたび呼び出される	
10	頭痛、腹痛を訴え登校をしづる	

### 第2段階 少し疑いをもって調べる

第1段階の10項目で気になることがあれば、子どもたちが「話さない」のではなく、「話せない」という状況にあることを疑わなければなりません。第2段階の10項目について、意識して観察したり、たずねたりしてみましょう。

1	かばんの中に「死ね」「バカ」などの手紙がある	
2	家のお金がなくなっている	
3	持ち物への落書きがある	
4	体(見えない部分)に青あざやマジックなどによるいたずら書きがある	
5	けがの原因をはっきりと言わない	
6	学校の様子や友だちのことを話したげらなくなる	
7	物がなくなる理由を聞いても「分からない」と言う	
8	友だちからの電話での対応が暗いなど不自然である	
9	食欲がなく、寝言などでうなされることがある	
10	成績が急に下がる	

### 第3段階 学校と連絡を取り合って調べる

学級担任がいじめを把握して対応すれば約半数は解決するという結果が出ています。

1	急に友だちが変わる	
2	学校と家庭で話す内容に食い違いがある	
3	教師への不満を話すが、教師は分かっていないことがある	
4	将来のことについて、投げやりなことを言うようになる	
5	学校からの報告の内容を聞いてもはっきりと言わない	

子どもたちがいじめられているとの発信をしても、いじめに気づいてくれない親は4人に1人もいるという調査結果(平成6年 旧文部省)があります。教師も親も「見ようとしなないものは見えない」といういじめ問題に対する大きな警告でもあります。

